

たまねぎ ベと病に注意！

1 発生状況

- (1) 2月上旬の病害虫発生予察調査において、複数のほ場で越年り病株（図1）の発生を確認した。
(2) 2月の気温は高く、降水量は平年並または多いと予想されており、今後、まん延の恐れがある。



図1 越年り病株



図2 2次感染株

2 生態と発生条件

- (1) 作物残さなどから、11～12月に苗床や定植後のほ場で感染する。
(2) 感染した株は越年し、2～3月に病徴を示し、葉は萎縮、黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる（図1）。越年り病株は1,000株に数株の発生でも2次感染株の多発につながる。
(3) 越年り病株が感染源となり、3～5月に温暖で降水量が多いと2次感染株（通常のべと病株）の発生が増え、急速にまん延する（図2）。
(4) 気温6～19℃で胞子を形成する。最適気温は13～15℃。
(5) 気温15℃前後、湿度90%以上で胞子が発芽する。
(6) 胞子は通常100m、強風時はさらに広範囲に飛散する。

3 防除

- (1) 越年り病株の抜取を徹底する。前年に発生が多かったほ場では、発生が増える恐れがあるので注意してほ場を見回る。抜き取った株は、ビニル袋等に入れて処分する。
(2) 予防的に予防剤を散布し、発生を認めたら発病株を抜き取った後、治療剤を散布する（表）。

表 たまねぎ ベと病の防除薬剤（例） 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤	ジチカ-バ-メ-ト(M3)	予防	400～ 600倍	収穫3日前まで	5回以内
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールド MZ	ジチカ-バ-メ-ト(M3) フェニルミド(4)	予防 治療	500～ 1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSII(45)	治療 予防	1,500～ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライアブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールド MZ などに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。